



スマートフォンでQRコードを読み込むと、故人の思い出と喪主からの感謝をまとめた映像が流れ出す。大勢が集まる葬儀場に行けなくても、故人をしのぶことができるようになった。

新型コロナウィルスは、人々の交流の形を変えた。葬儀やお見合いなどの「場」を提供してきた業種は、距離を隔てても心が通い合う新たな形を模索する。

葬祭事業を手掛けるフリエッセ（高崎市本

葬祭事業を手掛けるフリエッセ（高崎市本

画面通じ追悼、見合い

⑤ 場の提供

リアルな対面を補完

町は、大型連休明けから映像配信サービス「QRシアター」を開始した。故人をしのぶ写真や喪主からのメッセージなどを4分間ほどの動画にまとめ、交流のあった人に送ることができる。会葬礼状にQRコードを添えたり、電子メールや会員制交流サイト（SNS）を通じて送信したりすることもできる。

新型コロナ感染拡大以降、同社の葬儀場には変化があった。滞在時間の短い参列者が増えたのだ。多くの人がいる空間にとどまることへの警戒感が理由とみられる。新サービスについて、竹内一普社長は「『コロナ禍』だか



ら仕方ない」と悔いの残る別れにしてみたいたくない。QRシアターの活用は、故人に関わった人たちの気持ちを、より広く共有する助けになる」と考える。

一方で「思いが最も通じ合うのは顔を合わせた瞬間」とし、事業の主軸をリモートに転換する予定はない。新サービスは、対面での葬儀の補完的位置付けだ。

結婚相談所のハートステーション幸和（同市東町）は、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を使ったお見合いを今春から導入した。出会いたい気持ち最大の原動力となる「婚活」において、コロナ禍でも出会いの機会を提供できるよう工夫を凝らす。

同社は10年ほど前にもインターネット電話「スカイプ」でリモートの出会いの場をつくらうと模索したものフリエッセの新サービス「QRシアター」のイメージ

の、個人情報保護などの課題を解決できず頓挫した経緯があった。その後、同業者と一緒にはオンライン利用のルールを作るなど環境を整備。そこに今回のコロナ禍でリモートワークやビデオ会議が世間に一気に浸透し、「リモートお見合い」に追い風が吹いた。

同所の桜井清人代表は「実際に会うよりも、お見合いのハードルが低くなる」と利点を説明する。ただ「リアルでの対面とは印象が異なる」と話し、出会いの手段の一つとして、活用を促すつもりだ。

コロナ収束後も、人混み回避の習慣は変わらないかもしれない。リモートとリアル、双方の強みと弱点を見極めた取り組みが始まる。

（おわり）